

茶ぐわくゆんたく



167

今も昔から残るもの

上の写真は、1967（昭和42）年、国道58号北向きから旧大山公民館へ向かう道を工事している様子です。宜野湾市は1962（昭和37）年に村から市へ昇格した事により、急激に人口が増加しました。それに伴い、道路の舗装改修や排水設備の完備などの工事が各地で行われるようになりました。上の写真左側では、排水溝設置工事をしている様子が分ります。当時は現在のようにパーツをはめ込むのではなく、排水溝の型枠を作り、そこにコンクリートを流し入れていました。

そして下の写真は、約50年後の現在



▲大山 1967（昭和42）年
道をまっすぐ進むと十字路口右側に旧大山公民館がありました。



▲木製電柱 1967年当時はコンクリート製の電柱ではなく木製電柱が使用されており、現在も1本残っていました。



▲現在の様子 2018（平成30）年2月

の様子です。道を奥に進むと、当時使用されていたと思われる木製電柱が1本残っていました。ほとんどがコンクリート製になってきているため、見かけることが少ないと思います。普段何気なく利用している道も、よく見てみると昔のなごりがきちんと残っている様ですね。

【問合せ】

市立博物館 ☎870-9317

ぎのわんの

歴史・文化遺産

を歩く

—其の36—

はじめに

歴史が好きな人ならだれでも一度は「遺跡を調査したり、発掘してみたい!」と思ったことがあるのではないのでしょうか。そこで、今回は「発掘現場で働く人」について紹介していきたいと思っています。

遺跡を「調査」するお仕事

発掘現場ではいろいろな人たちが働いています。例えば宜野湾市では、教育委員会の職員や発掘のサポート会社の方々になります。教育委員会の職員や、発掘のサポート会社は、遺跡を調べのお仕事をします。遺跡の石器や土器などの「遺物」、建物の跡などの「遺構」



▲発掘作業を体験するインターンシップ生

を調べてその遺跡の時代やどのような遺跡だったのかを調査します。

このお仕事に就くには考古学の専門知識が必要になります。考古学を学ぶ大学は沖縄にもあるので、遺跡を調査するお仕事に就きたい人は、まず、考古学を学ぶことができる大学を目指すことが夢への第一歩です。

遺跡を「発掘」するお仕事

最初に紹介したお仕事の他にも、もう一つ大事な仕事があります。それが「発掘作業員」のお仕事です。作業員は考古学の専門知識を必ずしも必要としませんが、遺跡を直接発掘する大事なお仕事です。最近では、サポート会社が発掘調査がある時に募集することが多くなっており、昨年6月頃から12月末まで行われていた西普天間住宅地区の発掘調査ではおよそ一五〇名の方々が作業員として関わっていました。直接遺跡を掘れるお仕事なのでもしかすると自分の手で貴重なものを発見できるかもしれません。

おわりに

以上、「発掘現場で働く人」についての紹介をしましたが、今回紹介したお仕事はほんの一部です。発掘調査にはもっと多くの人が関わっています。この記事を書きかけに、将来一緒に発掘作業を行ってくれる人が増えるとうれしいです。

【問合せ】文化課 893-4430